

地域防災力をあげるために必要な地域、学校、大学の連携

Cooperation of a community required in order to raise local disaster prevention power, a school, and a university

此松 昌彦^{1*}

KONOMATSU, Masahiko^{1*}

¹ 和歌山大学防災研究教育センター

¹Center for Research and Education of Disaster Reduction, Wakayama University

1. はじめに

和歌山県では今世紀に東海・東南海・南海地震の発生が心配されている。まさに昨年(2011年)の東日本大震災によって和歌山県でも津波などによって同じような状況になる可能性が高いことを知った。さらに台風12号による紀伊半島大水害によって、住民は防災について強い関心を持つようになった。しかし住民の関心は高まっているが、具体的に地域の防災力を高めるまでには到達していない。防災リーダーたちはどのように行動したらよいかわからないことが多い。地域で防災訓練を実施しているが、高齢者しか参加しないなどの課題が多い。

和歌山大学では2004年から防災研究教育プロジェクトとして、地域ニーズの高い防災について自治体、団体、学校と連携して防災教育に関心を持たせるための教育プログラムを開発してきた。2010年からプロジェクトは発展して和歌山大学防災研究教育センターとして発足した。大学で行ってきた防災教育のプログラムを紹介する。

2. センターでの防災教育プログラム開発のコンセプト

地域で防災教育を実施するということは、住民が地域の弱点を考えることにつながり、防災によるまちづくりと密接に関係している。住民が地域のリスクについてイメージができるようになり、本当にこのままでは危険だという認識をもってもらうようにしている。そのためには「リアルな防災訓練」が重要であり、受け身の参加者を作らないように、意味を理解させながら自然に身体で覚えていくようなコンセプトを持っている。

3. 学校と地域の連携

地域防災力を高めるためには、学校との連携はかかせない。学校は地域の拠点でもあり、避難所になっていることが多い。そこまで巻き込んで避難訓練などを実施しないとリアルな防災訓練につながらないからだ。地域住民だけの避難訓練では、高齢者中心の訓練で、若者や子どもたちの参加が少ない。それを打開するためにも学校を巻き込んで、防災教育を実施してもらい、地域での学校と地域での防災訓練につながってくる。

和歌山県紀の川市荒川中学での事例

お昼の校内放送を利用し、生徒が地域の方と一緒に放送コンテンツを作成、校内放送で流して学校の全生徒に聞いてもらうという企画であった。中学生と地元の防災ボランティアの方たちと作成していった。作成した中学生が自分たちで脚本を書いてという作業も行い、中学生自身も学習している。その後、地域の方と生徒が地域の防災マップ作りへと発展した。

和歌山県海南市黒江小学校

児童と地域住民と避難訓練を企画して実践した。

4. 地域の要援護者と連携

社会福祉協議会などと連携し、聴覚障害者向けのコンテンツを作成している。

キーワード: 防災教育, 学校, 地域防災力

Keywords: Disaster prevention education, school, Local disaster prevention power